

滋賀県平和祈念館 第39回企画展示

戦時下の看護

戦場で救護・看護にあたった女性たち



県庁前にて、戦地へ向かう女性たちと見送る人々(西浦一丞さん 提供)

令和8年(2026年)

6月27日 **土** - 12月20日 **日** <入館無料>

開館時間 / 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日 / 月・火曜日(祝日にあたる場合は開館)

※その他業務の都合により休館する場合があります。

駐車場 / 約50台(無料)

詳しくはホームページをご覧ください。

滋賀県平和祈念館

検索



協力: 浅井歴史民俗資料館、出雲やすを顕彰会、市田椰良生さん、大津赤十字看護専門学校同窓会、日本赤十字社滋賀県支部



滋賀県平和祈念館

〒527-0157 滋賀県東近江市下中野町431番地

TEL / 0749-46-0300 FAX / 0749-46-0350 E-mail / heiwa@pref.shiga.lg.jp

戦時下の看護

戦場で救護・看護にあたった女性たち

戦争の時代、女性たちが目指した職業の一つに「看護婦」(現在の看護師)がありました。明治以降、医療の近代化が進む中で、看護教育が段階的に制度化され、専門的な職業としての道が開かれていきました。日露戦争以降は、本格的に救護・看護要員として軍とともに派遣される女性が登場しました。

また、明治時代、日本赤十字社の創設と発展をはじめ、郡や市町村では感染症対策として看護法講習会などの取組が行われました。それにより、看護の理念は戦時にとどまらず、平時の地域社会にも広く浸透していきました。

日中戦争以降は、戦地へ派遣される救護・看護要員の数が大きく増加しました。こうした状況の中、物資や食糧が不足する過酷な戦場で、救護・看護活動に従事することとなりました。

第39回企画展示では、戦場で救護・看護に従事した滋賀県出身の女性たちの体験談を中心に、戦時下の看護について紹介します。



昭和16年 患者運搬実習の様子 (個人 提供)



貯金箱
(出雲 一郎さん 提供)



大嶽康子著「病院船」
(田村 栄さん 提供)



救護班として戦地へ向かう女性におくられた寄せ書き日の丸
(西浦 一多さん 提供)

関連行事

学芸員による企画展示説明会

令和8年(2026年) 6月28日(日) / 7月26日(日) 15:15~ (45分程度)

※8月のイベントでも展示説明会を行います。詳しくは「平和祈念week2026」のチラシや当館HPをご覧ください。

予約不要

参加無料

平和祈念館からのお願い(事前にお電話でご相談ください)

■ 体験談の聞き取り調査・資料寄贈にご協力ください

国内外で戦争を体験された方からの体験談を募集しています。調査員がうかがってお話をお聞きます。また、戦争に関わる資料(戦没された方の遺品、戦時中に使っておられた品物、当時の写真・書類など)の寄贈を受付しています。資料の背景や当時使っておられた方の軍歴または体験談をお聞きます。対象は現在、滋賀県にお住まいの方、または滋賀県に関係した戦争・戦時中の生活についての情報をお持ちの方です。

■ ボランティア募集

戦争の悲惨さや平和の尊さを伝える活動のボランティアを募集しています。

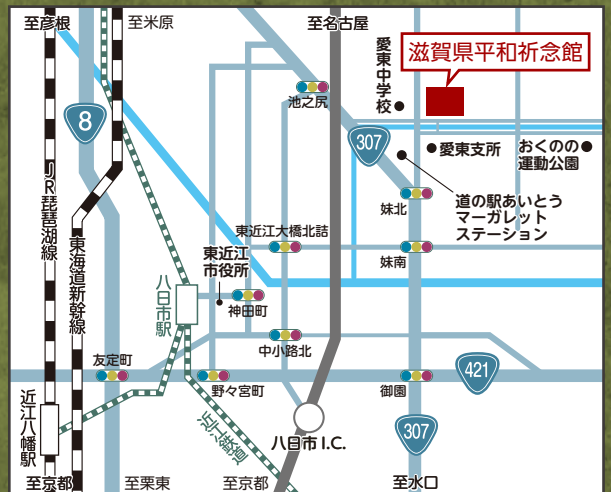
■ 滋賀応援寄附のお願い

いただいたご寄附は、平和への想いを次世代へつないでいくための事業に活用します。

詳しくは「滋賀県平和祈念館」までお問い合わせください

TEL / 0749-46-0300 FAX / 0749-46-0350
E-mail / heiwa@pref.shiga.lg.jp

交通アクセス



- JR琵琶湖線(東海道線)彦根駅または近江八幡駅乗り換え
近江鉄道八日市駅からバスで約20分「愛東支所・診療所前」下車すぐ
- 名神高速道路「八日市IC」から車で約10分(駐車場/約50台(無料))